

国際政治

121

宗教と国際政治

日本国際政治学会編

序論 現代の宗教復興と国際政治	小杉 泰
ペンテコステ＝カリスマ運動とアフリカのネオ・パトリモニアル国家	落合 雄彦
バチカン外交と現代の国際政治	塩崎 弘明
現代イランにおける対外政策と宗教的使命	富田 健次
遠隔地イスラミストと国際政治	酒井 啓子
イスラエルにおける宗教、国家、そして政治	臼杵 陽
アイルランド問題をめぐる英国の対ヴァチカン政策	松本 佐保
韓国の第5共和制と新旧教会の民主化運動	李 分一
ヒズブッラーの二つの顔	三尾 真琴
パレスチナ紛争に見る「宗教的ナショナリズム」の位相	森戸 幸次
<hr/>	
ラーコシ失脚とソ連・ユーゴスラヴィア関係（1955－1956）	荻野 晃
<hr/>	
<書評>	
細谷千博・本間長世・入間昭・波多野澄雄編『太平洋戦争』	佐藤 晋
谷口将紀著『日本の対米貿易交渉』	落合 浩太郎
クマール・ルーペシング著、辰巳雅世子訳『予防外交』	納家 政嗣
三谷太郎著『近代日本の戦争と政治』	上野 隆生
エドガー・オーバランス著『コーカサスにおける戦争1990～1995』	
パーヴェル・パエフ著『コーカサスにおけるロシアの政策』	広瀬 陽子
毛里和子著『周縁からの中国』	村田 雄二郎
中園和仁著『香港返還交渉』	後藤 春美
山極晃著『米中関係の歴史的展開 1941～1979』	湯浅 成夫
後藤春美著『上海における日本とイギリス 1925～31』	土田 哲夫
佐藤幸男編『世界史のなかの太平洋』	福嶋 輝彦

1999年5月刊